

世界遺産アカデミー認定講師 File No.27

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第27回目の今回は、新聞社勤務で全国各地を飛び周りながらも、関西エリアを中心に講演いただいている、WHA賛助会員の横田美晴(よこた・みはる)さんです。

——世界遺産という、心の芯

「古代文明」や「秘境」と聞くと、それだけでワクワクしてしまう子供だった私。「いつか自分も現地へ行ってみたい」と思いながら、本を読みあさる中で、「世界遺産」というキーワードに出会ったのは、自然な流れだったように思います。学生時代は、バックパックを背負いながら、インドや中国、中央アジアなどを放浪し、少しずつ世界遺産の知識を深めていきました。現在は新聞記者をしています。世界遺産との出会いが、この仕事を指すきっかけとなった、大きな要因のひとつです。古代遺跡や貴重な自然の、未だ知られていない魅力を伝えていきたい。そう思ったことが、志望動機の根底にあったからです。

運良く、これまで、マヤ文明やアンコールの遺跡を取材したり、ポンペイ遺跡の壁画展を運営したりする機会にも恵まれました。もちろん、そういった分野の仕事ばかりを担当するわけではありませんが、それでも日々、仕事の方向性に迷うこともある中で、自分の根幹に、世界遺産という、しっかりとした「芯」を持ってたことは、とても大きかったように思います。

また、世界遺産検定を通して、様々な国の多彩な世界遺産を知ることができました。自分の知識が興味のまま、好みの物件や地域性・時代性に偏りがあることを感じていましたので、まずは世界地図を読み込み、国や自然地形の位置関係を頭に入れることに努めました。その上で、公式テキストから細かく



グアテマラのティカル遺跡で。ひとつひとつ巡りながら、専門家の解説を聞く地元の学生ら。物件を見ていくと、歴史的・自然環境的に同じ背景を持った物件の繋がりが浮かび上がってきます。時間はかかったものの、次第に世界遺産の知識が定着していきました。遠回りな学習方法かもしれませんが、マイスターや



高い建造物に上ると、目の前には熱帯雨林が果てしなく続き、ティカルの遺跡が点在するのが見える。その先を目指すには効率的なやり方だと思えます。

話を世界遺産に戻しますと、私がとりわけ注目している物件は、グアテマラの複合遺産「ティカル国立公園」です。長年、マヤ文

明研究を続けておられる金沢大学の中村誠一(なかむら・せいいち)教授が、現在、新たなプロジェクト始めています。地元の若者が、世界遺産について学べる機会をつくり、その知識を仕事につなげてもらうことで、地元の活性化を目指すというものです。グアテマラは決して裕福な国ではありません。また、近くに住みながらも、遺跡を訪れたり学んだりする機会もない人々が、地元の大半です。同行取材した際、このプロジェクトを通して、地域の学生らが熱心に世界遺産について学び、地元への誇りを高めていく姿は、とても印象的でした。中村教授が目指す理想は、まさに世界遺産の本質だと言えるのではないのでしょうか。

——世界は無限に広がっていると、知っていただけるように

世界遺産アカデミー認定講師として、関西エリアを中心に講演させていただいています。京都・平安女学院中学校や大阪市立大学などの若い世代の方々が多いたところでは、授業の序盤は皆さんおとなしくて、静かに始まることが多いですね。時間が経つにつれ、世界遺産クイズなどで盛り上がり、徐々に肩の力が抜け始めると、一気に距離が縮まっていくのを感じます。反対に、兵庫県・芦屋川カレッジや阪神シニアカレッジ主催の生涯学習講座では、シニア世代の方々が多く、最初から非常に勉強熱心で積極的で、こちらが戸惑うほど質問攻めに遭うこともしばしば。

それぞれに違った体験をさせてもらっています。ちょっとした現地での体験談や泣き笑いのエピソードなどをお話すると、世代に関係なく、皆さん、キラキラした表情で熱心に聴いてくださって、このあたりは共通する部分のようです。そして、講演後、「自分ももっと勉強して、現地へ行って体験してみたい」と、ご感想いただけることが、何より嬉しい瞬間です。

世界遺産に対して、自分自身もワクワクする気持ちを忘れないこと、そして、そうした気持ちそのものを、皆さんに伝えるつもりでお話することを、いつも心がけています。私がお話で伝えられる情報や知識はごく一部ですが、皆さんが興味を持ってくださって、自ら学んでいきかけにしてくださいれば、そこから先の世界は無限に広がっています。認定講師として、その最初の出会いを繋げることが、とても誇らしいです。と言っても、大上段に構えているわけではありません。世界遺産の魅力を一緒に語り合える仲間を少しでも増やしたい。そんな想いで、いつも楽しませていただいています。



2016年、兵庫県立美術館開催「世界遺産ポンペイの壁画展」の展示準備の様子。日本初公開「赤ん坊のテレフォスを発見するヘラクレス」は、6人がかりで設置した